



会長あいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 上田 克彦

平素は本会事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。また感染拡大が収まらない新型コロナウイルス感染症の対応におきまして、全ての医療関係者の皆さまの献身的な活動に感謝申し上げます。

さて、最近の診療放射線技師を取り巻く話題についてですが、政府から新型コロナウイルス感染症のワクチン接種における接種後の経過観察について、診療放射線技師活用の協力依頼を受け、各地で貢献いただいております。私自身も国際医療福祉大学における職域接種において経過観察の役割を担当させていただきました。また自民党総裁選挙前には、畦元将吾先生のご尽力で候補者である岸田文雄先生からヒアリングの機会を頂きました。その中で、診療放射線技師の業務内容や最近の法令改正に伴い貢献する業務領域が拡大していることなどを説明して、診療放射線技師の適正数配置について検討いただきたいと要望致しました。その他、正しい放射線知識を国民に周知したいとの政府の意向から、複数の関係省庁から相談を受け、環境省に関しては一部の事業に協力しております。以上のような活動から、少しずつ「診療放射線技師」の名称が政府や省庁の中で正確に認識されてきたことをうれしく思っております。

そうした中、このたび第37回日本診療放射線技師学術大会は、メインテーマを「国民と共にチーム医療を推進しよう」、サブテーマを「技術の多様性と人の調和」として、東京ビッグサイトで開催致します。本大会は2年ぶりとなる対面方式と、昨年、初めて採用したWeb方式を併用するハイブリッド方式で開催致します。対面方式では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に最大限配慮して安全を第一に運営致します。そのため例年、会員の交流の場として楽しんでいただいていた情報交換会は中止とさせていただきます。ハイブリッド方式の大会は本会では初めての試みとなるため、大会準備では状況に応じて変更を行うなどの対応をまいりました。昨年度はWeb方式を初めて採用し、5千人を超える参加登録を頂き、想像以上にWeb方式の利点を認識致しました。本年も全国各地からの参加を心からお待ちしております。また本大会では、第23回アジアオーストラレーシア地域診療放射線技師学術大会（23rd AACRT）と第28回東アジア学術交流大会（28th EACRT）を本会がホスト国として併催致します。この国際大会は、各国の感染状況を考慮しWeb方式のみの大会となりました。詳細につきましては国内大会も併せて大会のホームページでご確認いただきますようお願い致します。

日本診療放射線技師学術大会では、診療放射線技術に関する最先端の研究も発表されていますが、日常の診療にすぐに貢献できる内容や関係省庁の協力を得た内容もたくさん企画しており、本会の役割を十分感じていただける大会となっております。ぜひ、たくさんの研究や講演・シンポジウムなどを、会場ならびにWeb配信でご視聴いただきご評価いただきたいと存じます。

最後に、学術大会開催にご支援いただきました関係企業、東京都診療放射線技師会をはじめ各方面の皆さまに御礼申し上げ、学術大会のあいさつとさせていただきます。